

会 員 各 位

陸上貨物運送事業労働災害防止協会
京都府支部長

第41回全国フォークリフト運転競技大会 出場選手選考会の開催について（ご通知）

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、「フォークリフト運転競技を通じて遵法精神と安全意識の高揚および運転の知識と技能の向上を図り、職場における安全作業の確立と労働災害防止の推進に資する」ことを目的に、表題の第41回全国フォークリフト運転競技大会が、**令和8年11月28日(土)、29日(日)**の2日間「中部トラック総合研修センター」に於いて開催されます。

この全国大会に先立ちまして、京都府支部、大阪府支部、滋賀県支部の3支部合同で、各支部から全国大会に推薦する出場選手の選考会を、下記により開催いたします。

つきましては、業務ご多用中誠に恐縮ですが、上述の趣旨をご理解賜わり実施要領をご参照のうえ、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日時 **令和8年7月25日(土) 8時30分～14時30分(予定)**
2. 場所 **クレフィール湖東**
(滋賀県東近江市平柳町22-3 TEL0749-45-3880)
3. 申込先及び締切日

申込にあたりましては、所定の「申込書」(別紙)に必要事項をご記入のうえ、**7月3日(金)までに**「陸上貨物運送事業労働災害防止協会京都府支部」宛お申込み下さい。京都府支部の定員(原則7名)になり次第締め切らせて頂きます。

【申込み・お問い合わせ先】

陸上貨物運送事業労働災害防止協会 京都府支部
〒600-8214 京都市下京区東塩小路高倉町2番1 京都ケイズビル3階
Tel・fax 075-744-0373 Mobile 080-9577-0373
Email : kinki@rikusai.or.jp <https://rikusai.or.jp/kyoto/>

※ 詳しい競技実施要領をご希望の方は、当支部のホームページを
ご覧頂くか、上記メールアドレスあてにご請求ください。



第41回全国フォークリフト運転競技大会 出場選手合同選考会実施要領

1. 目的

本大会は、厚生労働省の支援の下、フォークリフト運転競技を通じ、遵法精神と安全意識の高揚及び運転の知識と技能の向上を図り、もって職場における安全作業の確立と労働災害防止の推進に資することとする。

2. 主催

陸上貨物運送事業労働災害防止協会 京都府支部 大阪府支部 滋賀県支部

3. 競技部門

「一般の部」と「女性の部」の2部門とする。

4. 実施日時

令和8年7月25日(土) 8時30分～14時10分予定

開会式	8時30分～
学科・点検競技	8時50分～
運転競技	11時00分～
閉会式	14時00分～

5. 実施場所

クレフィール湖東 物流研修棟

〒527-0102 滋賀県東近江市平柳町22-3 Tel 0749-45-3880

6. 定員(京都府支部枠:原則7名) ※先着順

※所属する支部へお申込みください。 ※参加費は無料。

7. 出場者資格

- (1) 陸運労災防止協会都道府県支部の会員事業場の従業員で、勤務成績が優秀であること。
- (2) 参加申込日において、フォークリフト運転技能講習修了証取得後、1年以上経過していること。
- (3) 参加申込日において、フォークリフト又は自動車の運転により、過去1年間無事故であること。また、過去3年間(フォークリフト運転技能講習修了又は自動車運転免許取得後の期間が3年に満たない者については、当該3年に満たない期間)人身事故を起こしたことがないこと。
- (4) 過去に全国大会で優勝又は準優勝の経験がないこと。

8. 競技種目および配点

競技種目は、学科競技、点検競技及び運転競技の3種目とする。配点は、学科競技300点、点検競技100点、運転競技600点、合計1,000点とする。

9. 各競技種目の実施要領

各競技種目は、次により実施する。

(1) 学科競技

- ア. 出題数は50問、1問6点とし、正誤方式とする。
- イ. 出題分野及び分野ごとの問題数の目安は、次表のとおりとする。

出題分野	問題数の目安
関係法令 ※1	10
フォークリフトの利用、機能・性能等の概要、 災害発生状況等 ※2	5
荷役及び走行装置の構造、取扱いの方法	25
運転に必要な力学	10
合計	50

※1 令和8年1月1日時点で施行されている法令による。

※2 令和7年までの災害発生状況等による。

- ウ. 制限時間は40分とする。

(2) 点検競技

ア. 競技要領

荷役運搬作業の安全性を確保するための作業開始前点検を主体として行う。

フォークリフトにあらかじめ設定した不具合箇所を競技者に発見させ、その都度、不具合状態を審査員に報告させる方法とする。(詳細は京都府支部ホームページ掲載)

- イ. 使用車種は、「住友」製の最大荷重2.5トン(トルコン式ガソリン車)カウンターバランス型とする。(型式：11FG25)

(3) 運転競技 (走行及び積卸し)

ア. 競技要領

安全な荷役運搬作業を主体として行う。規定のコースを走行し、所定の重量の荷の取りおろし、移動、荷の積付けを行う方法とし、基準操作技術について減点方式により採点する。(詳細は京都府支部ホームページ掲載)

- イ. 使用車種は、点検競技使用車種に同じ。

- ウ. 使用積載荷重は、1.0tとする。

10. 順位の決定

- (1) 学科競技、点検競技及び運転競技の合計点を総合得点(満点1,000点)とし、総合得点に従い順位を決定する。
- (2) 総合得点が同点である者が生ずる場合には、運転競技得点が高い者を上位者とし、運転競技得点も同点である場合には、点検競技得点が高い者を上位者とする。さらに、点検競技得点も同点である場合には、運転競技時間の短い者を上位者とする。

11. 全国大会への推薦 (京都府支部)

京都府支部出場選手で京都府支部内の最高得点者を第40回全国フォークリフト運転競技大会に推薦する。(一般部門・女性部門とも)

- 12. その他 合同選考会出場選手のうち成績が最上位の者に合同選考会の優勝楯を贈る。また、出場者全員に参加賞を贈る。

第41回全国フォークリフト運転競技大会出場選手合同選考会

(京都府支部)参加申込書 [一般の部 ・ 女性の部]

※ いずれかに○を付けてください。

申込日：令和8年 月 日

ふりがな			性別	男・女
選手名				
現住所	〒 —			
電話番号	— —		(携帯電話) — —	
会員名 (事業所名) 所在地	(会社名)		(支店・営業所)	
	(所在地) 〒 —			
	(TEL) — —		(FAX) — —	
連絡担当者	(所属・役職)		(氏名)	
参加資格の 証明欄	<p>標記は、当事業所従業員であり、参加申込日において、フォークリフト及び自動車の運転について過去1年間（人身事故については過去3年間）無事故であり、大会実施要綱の参加資格を有していることを証します。</p> <p>証明者署名 (所属事業所責任者) 役職 氏名 ㊟</p>			

「注」記載された個人情報は、合同選考会及び全国大会の推薦時以外使用いたしません。

※所持するフォークリフト運転技能講習修了書は表・裏両面コピーし、添付願います。

【点検競技、運転競技の詳細】

別紙 1 点検競技作業開始前点検項目

別紙 2 運転競技コース

別紙 3 運転操作手順

別紙 4 停止線審査基準

点検競技作業開始前点検項目

① 車両前面

1 フォークの変形、亀裂、損傷、取付け状態
2 バックレストの変形、亀裂、損傷、取付け
3 マストの変形、損傷
4 リフトチェーンの損傷、変形、左右の張り
5 リフトシリンダの油漏れ、傷、ホースの取付け状態

② 左前方

6 ティルトシリンダの油もれ、傷、ロット エンドのゆるみ
7 油圧ホースの油もれ、取付け状態

③ 左前輪

8 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
9 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ

④ 左側面

10 ヘッドガードのがた、変形、損傷

⑤ エンジンルーム

11 エンジンオイルの量、汚れ
12 バッテリー端子の取付け、液量
13 冷却水(リザーバータンク)の量
14 ブレーキオイルの量
15 ファンベルトのゆるみ

⑥ 左後輪

16 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
17 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ

⑪ 右前方

25 ティルトシリンダの油もれ、傷、ロット エンドのゆるみ
26 油圧ホースの油もれ、取付け状態

⑩ 右前輪

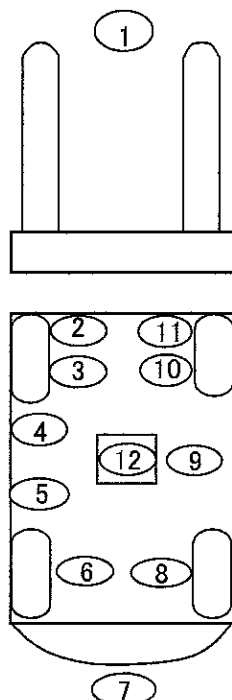
23 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
24 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ

⑨ 右側面

21 ヘッドガードのがた
22 作動油の量、汚れ(エンジンルーム内)

⑧ 右後輪

19 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
20 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ



⑦ 後方

18 駐車地面に油もれ、水もれ、燃料もれ

⑫ -1 乗車 (エンジンカバーを閉)

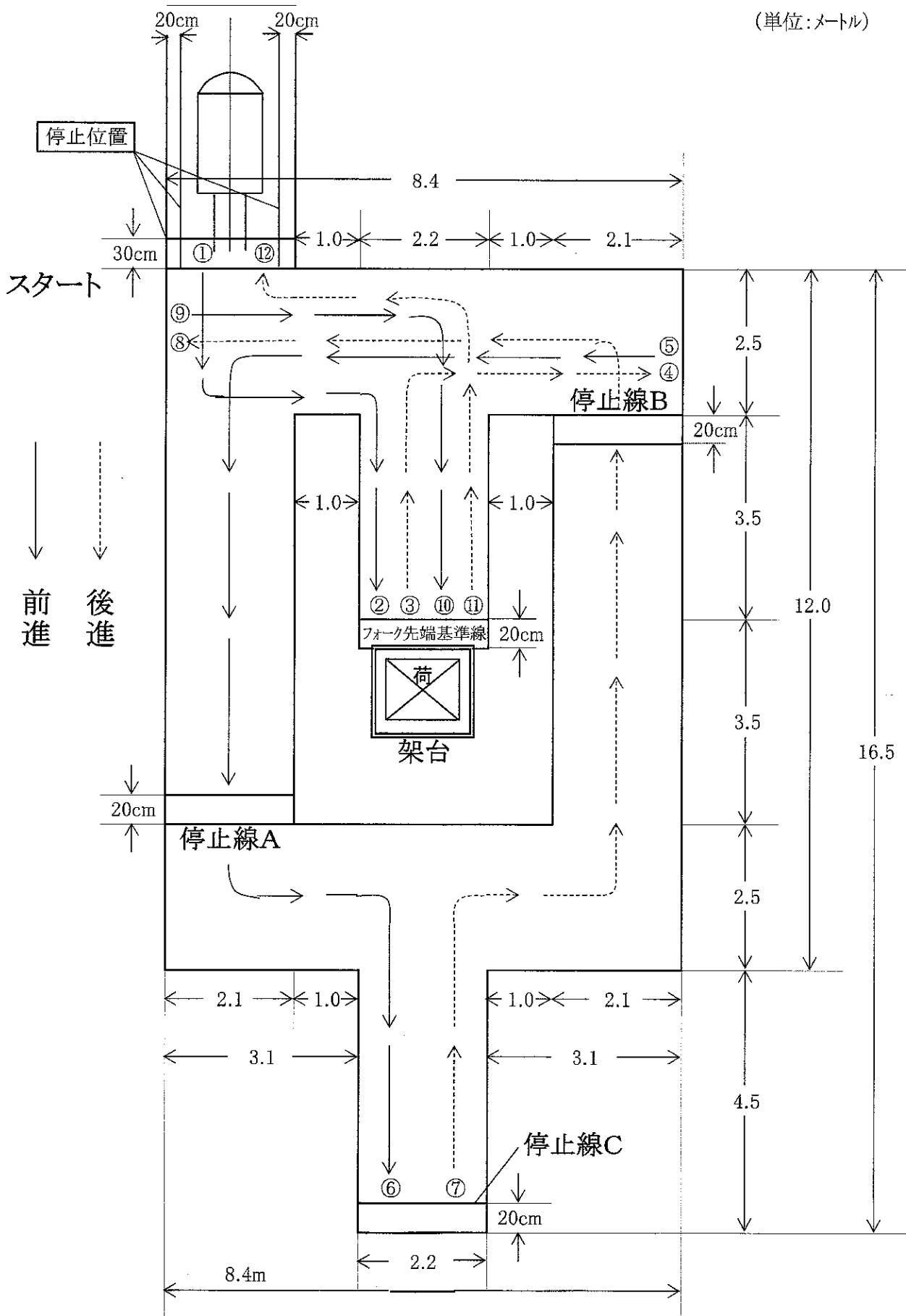
27 リフト及びティルトレバーのがた
28 駐車ブレーキの引きしろ又は踏力
29 ブレーキペダルの遊び、踏しろ、戻り
30 インチングペダルの遊び、踏しろ、戻り
31 ハンドルの遊び、がた
32 後写鏡の取付け、汚れ、写影

⑫ -2 エンジンスイッチを入れる

33 計器の作動
34 前照灯の点灯
35 後退灯の点灯
36 ブレーキランプの点灯
37 バックブザーの作動
38 方向指示器の点滅
39 クラクションの作動

運転競技コース

(単位:メートル)



運 転 操 作 手 順

No	運 転 操 作 手 順		注 意 事 項
1	乗 車	<p>[注：乗車前のフォークリフトの周囲及び下部の安全確認は省略する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運転席「左横」に進み、両足を揃えて立つ 2 左手はヘッドガードの柱（握手）を握り、右手は座席の背もたれを握る 3 左足をステップ上に乗せて乗車する 4 着席後の座席を調整する 5 後写鏡の写影を調整する 6 シートベルトを着用する 7 各種レバーが中立位置にあるかを確認する 8 駐車ブレーキがかかっているかを確認する 9 エンジンキーを始動スイッチに差込む 10 ブレーキペダルを踏込む 11 エンジンキーを「START」位置まで回してエンジンを始動させる 	<p>各操作手順共通事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前方、後方、側面等の安全確認は確実に実施する 2 前後進レバーを入れる前に駐車ブレーキを外さない 3 前後進レバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏込む 4 駐車ブレーキの外し忘れをしない 5 走行中は左手でハンドルノブを握っていること 6 走行中右手をレバーの上に乗せない（膝の上に置いていること） 7 発進及び曲がり角進行時に進行方向（左右を含む）の安全確認をする（前後進とも） 8 フェンスとの接触、コースから脱輪をしない 9 空フカシ、エンスト、誤動作、前後進のやり直しをしない 10 急発進をしない 急ブレーキをかけない 11 コース上ではインチングペダルは使わない。 12 方向指示器の操作は省略してもよい
2	発 進	<ol style="list-style-type: none"> 1 フォークをリフトする（地上5～10cm） （注）計測開始 2 マストを後方一杯にティルトする（フォークの高さは地上15～20cm） 3 前方及び側面の左右の安全を確認する 4 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外す 5 静かに発進する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 リフトより先にティルトしない 2 マストを後ろ一杯にティルトする 3 フォークの高さが高過ぎないか（地上20cm超） 4 フォークの高さが低過ぎないか（地上15cm未満）

No	運 転 操 作 手 順	注 意 事 項
3	<p style="text-align: center;">架 台 ま で の 走 行</p> <p>①→② 走 行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前進で安全走行をする 2 架台の手前に来たら、徐行運転をする 3 架台上の積み荷パレットの中心線とフォークリフトの中心線を合わせ、ゆっくりと前進する 4 フォーク先端基準線で停止する 5 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立にする 	<ol style="list-style-type: none"> 1 フェンスとの接触注意 2 最徐行 3 フォークの先端がフォーク先端基準線の内側にあること (20cm以内) 4 積み荷パレットの中心とフォークの左右のずれを少なく (約10cm以内)
4	<p>取おろし</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マストを垂直にする 2 フォークをパレットの差込口に合うようにリフトする 3 前方の安全を確認し、前後進レバーを前進に入れて、駐車ブレーキを外す 4 静かに前進して、フォークの根元が10～20cm残るように差し込み停止する 5 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立にする 6 静かにリフトして止める。(パレット下面と架台上面の間隔を5～10cmにして止める) 7 安全確認をする(積み荷の安全度、荷崩れ、フォークの位置等) 8 後方の左右の安全を確認する 9 前後進レバーを後進に入れて、駐車ブレーキを外す 10 静かに後進し、パレット端面と架台の端面が一致する位置にて停止する 11 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる 12 架台上にパレットを置く(フォークは、パレットの差込口の中間で止める) 13 前方の左右の安全を確認する 14 前後進レバーを前進に入れて、駐車ブレーキを外す 15 パレット端面がフォークの垂直部に接触するまで静かに前進し、停止する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 荷に対してフォークを直角にする 2 マストをティルトしながらリフトしない 3 2段取りをする 4 フォークを差し込む時パレットをこすらない 5 フォークを差し込む時パレットを突かない 6 架台にフォークリフトを接触させない 7 リフト時の高さが高過ぎない (パレット下面と架台面までの間隔を10cm以上にしない) 8 荷重のためパレットが下がるが直す必要なし 9 パレット下面と架台が接触した状態でフォークリフトを移動させない 10 フォークでパレットをこすったり、パレットを引きずらない 11 フォークを根元まで差し込む

No	運 転 操 作 手 順		注 意 事 項
4	取 お ろ し	16 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる	12 荷をリフトした時は、常に荷の安定を確認する 13 パレット先端面がフォーク先端基準線の内側にあること (20cm以内)
17 静かにリフトして止める (パレット下面と架台上面の間隔を5～10cmにして止める)			
18 後方の左右の安全を確認して、前後進レバーを後進に入れる			
19 駐車ブレーキを外し、パレット端面が架台に接触しない位置まで静かに後進し、停止する			
20 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる			
21 フォークを降下させる (パレット下面と床面の間隔を5～10cmにして止める)			
22 マストを後ろ一杯にティルトする			
5	③→④ 積 荷 後 進 走 行	停 止 線 A ま で の 走 行	
1 後方の左右の安全を確認する		1 停止時の審査基準の詳細は別紙4を参照すること 2 一旦停止した後に前後の調整走行は行わないこと 3 ブレーキペダルは踏んでいること 4 Aにおける一旦停止時間はおおむね3秒程度	
2 前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外す			
3 静かに後進し、④の位置で停止する			
4 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる			
6	⑤から 停止線 Aまで 積 荷 前 進 走 行		1 前方の左右の安全を確認する
2 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外し、停止線Aまで前進する			
3 停止線に近づいたら徐行し、パレット先端が停止線A内に納まる位置で一旦停止する			
4 前後進レバーを中立に入れる			
7	停止線 Aから 停止線 Cまで 積 荷 前 進 走 行 と 積 荷 後 進 走 行	停 止 線 B ま で の 走 行	
1 前方の左の安全を確認する		1 停止線Cの内側まで入れる [パレットの先端からフェンスまでの距離が離れすぎていないか (20cm以内)] 2 Bにおける一旦停止時間はおおむね3秒程度	
2 前後進レバーを前進に入れ、停止線Cの内側まで前進して停止する			
3 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立にいれる			
4 後方の左右の安全を確認し、前後進レバーを後進に入れて、駐車ブレーキを外し、停止線Bまで後進する			

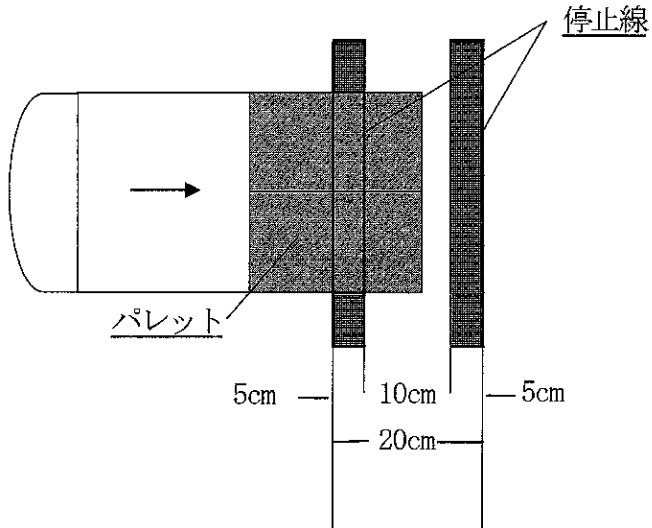
No	運 転 操 作 手 順	注 意 事 項
	積荷後進走行 5 停止線に近づいたら徐行し、カウンタウエイトの先端が停止線B内に納まる位置で一旦停止する 6 前後進レバーを中立に入れる	3 停止時の審査基準の詳細は別紙4を参照にすること 4 ブレーキペダルは踏んでいること
8	停止線Bから⑩まで 積荷後進走行 積荷前進走行 1 後方の右の安全を確認する 2 前後進レバーを後進に入れ、後進で⑧まで安全走行し停止する 3 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる 4 前方の左右の安全を確認する 5 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外し前進にて⑩まで安全走行をする 6 架台の手前に来たら徐行運転をする 7 架台の中心線とフォークリフトの中心線を合わせ、ゆっくりと前進する 8 架台の手前で停止する 9 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる	架 台 ま で の 走 行 1 パレット先端面がフォーク先端基準線の内側にあること (20cm 以内)
9	積付け 1 マストを垂直にする 2 パレットを静かにリフトして止める (パレット下面と架台上面との間隔を10~15cmする) 3 パレット下面と架台上面との間隔の適否を確認する 4 前方の左右の安全を確認する 5 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外し、静かに架台へ前進する 6 パレット端面と架台端面とが一致する位置で停止する 7 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる 8 パレットを静かに架台上に下ろす (フォークはパレットの差込口の中間で止める) 9 後方の左右の安全を確認し、前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外す	1 マストをティルトしたままリフトしない 2 パレットと架台との接触に注意する 3 走りながらリフトやティルトの操作をしない 4 フォークリフト前輪を架台に接触させない 5 2段取りとする 6 荷をリフトした時は、常に荷の安定を確認する

No	運 転 操 作 手 順	注 意 事 項
	<p>10 フォーク垂直部とパレット端面の間隔が10～20cm位になるまで後進する</p> <p>11 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる</p> <p>12 パレット下面と架台上面との間隔が5～10cmになるようにフォークをリフトする</p> <p>13 前方の左右の安全を確認し、前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外す</p> <p>14 定位置（パレットを置く位置）まで前進して停止する</p> <p>15 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる</p> <p>16 パレットを静かに架台上に下ろす（フォークを差込口の中間で止める）</p> <p>17 後方の左右の安全を確認する</p> <p>18 前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外し、フォーク先端が架台に接触しない位置まで後進し、停止する</p> <p>19 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れ、フォークを地上5～10cmになるまで降下する</p> <p>20 マストを一杯にティルト（後傾）する</p>	<p>7 フォークを抜くときパレットをこすらないようにする</p> <p>8 パレットを置く位置は、白色テープでマーキングされている（1.20m×1.20m）内側に置く</p> <p>9 白色テープにかからないように置く</p> <p>10 置いた荷の安定を確認する</p> <p>11 フォークがパレットをこすらないようにする</p> <p>12 フォークの先端がフォーク先端基準線内にあること（20cm以内）</p> <p>13 フォークを下降する前にティルトしない</p>
スタート地点までの走行及び停止と下車		
10	<p>⑪→⑫ 後進走行</p> <p>ゴール</p> <p>停車</p> <p>下車</p> <p>1 後方の左右の安全を確認する</p> <p>2 前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外し後進する</p> <p>3 スタート地点で停止する</p> <p>4 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立にする</p> <p>5 マストを少し前にティルトし、フォークが軽く地面に接触するまで降下する</p> <p>6 エンジンキーを「OFF」の位置まで回して、エンジンを止め、エンジンキーを抜く</p> <p>7 左側の前後方向の安全を確認する</p> <p>8 左手でヘッドガードの柱（握手）をにぎり、右手は座席の背もたれをもって、ゆっくりと後ろ向きにて下車する (注) 計測終了は、両足がついた時</p> <p>9 エンジンキーを審査員に手渡す</p>	<p>1 フォークの高さが高過ぎないか（20cm超）</p> <p>2 フォークの高さが低過ぎないか（地上15cm未満）</p> <p>3 停止位置不良（フォークの先端がフォーク先端基準線内にあること。白線で明示する。左右20cm以上。黄線で明示する）</p> <p>4 飛び降りない</p> <p>5 左側から降りる</p> <p>6 標準時間の5分を越えないように</p>

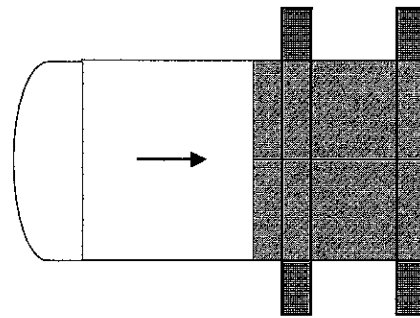
停止線審査基準

停止線A (前進)

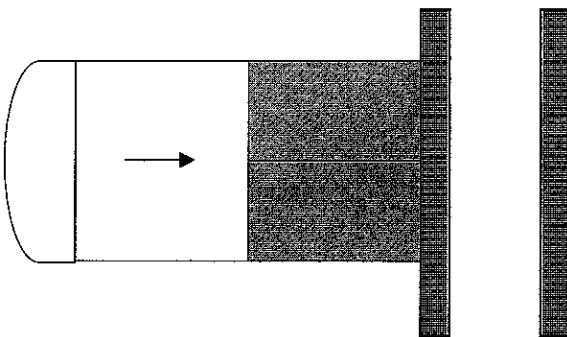
[減点とならず]



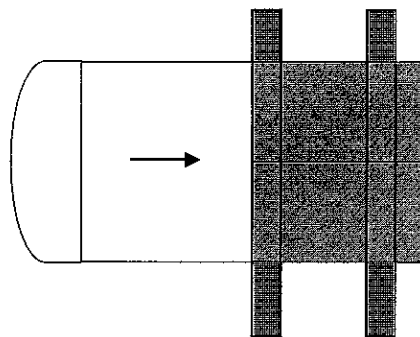
[減点とならず]



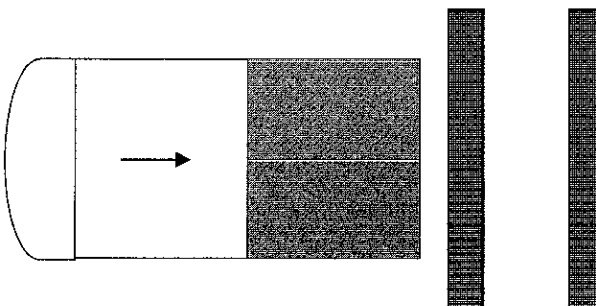
[減点とならず]



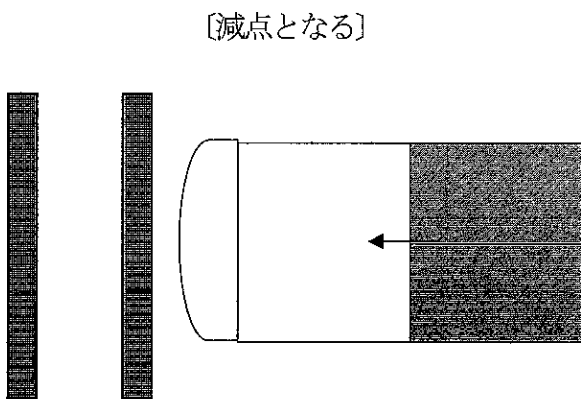
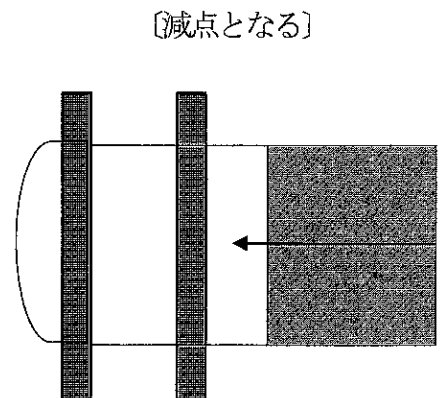
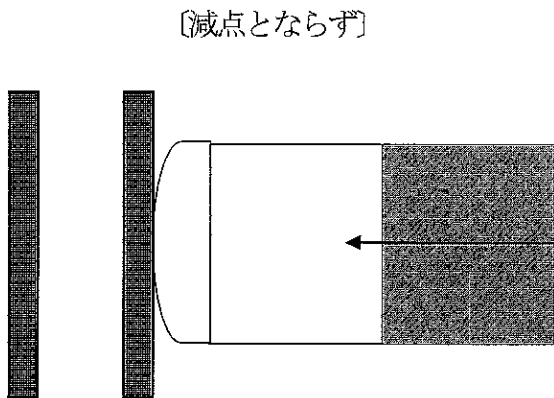
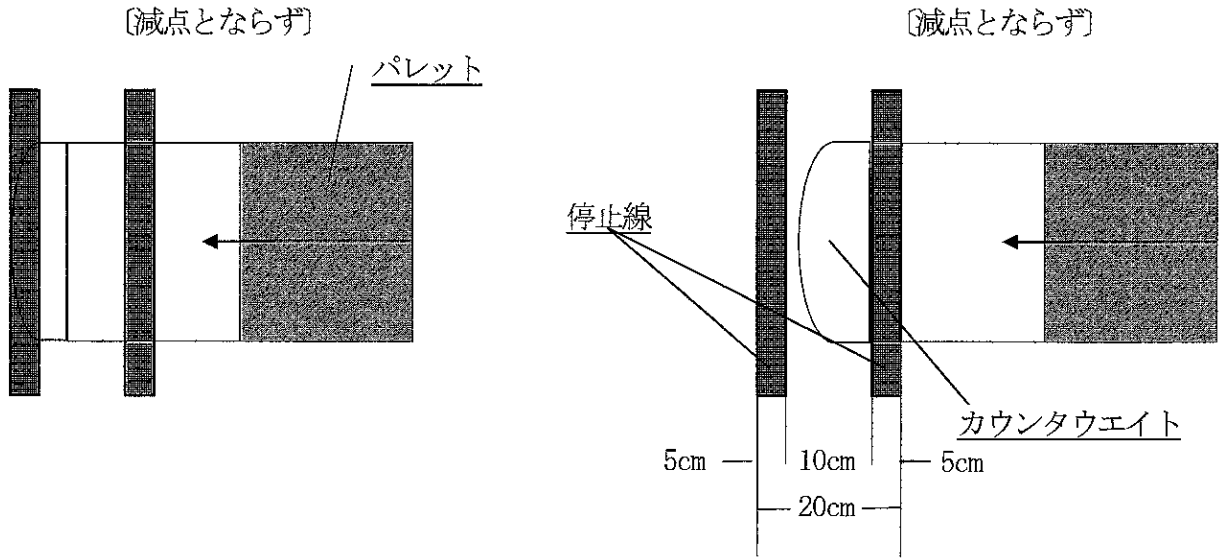
[減点となる]



[減点となる]

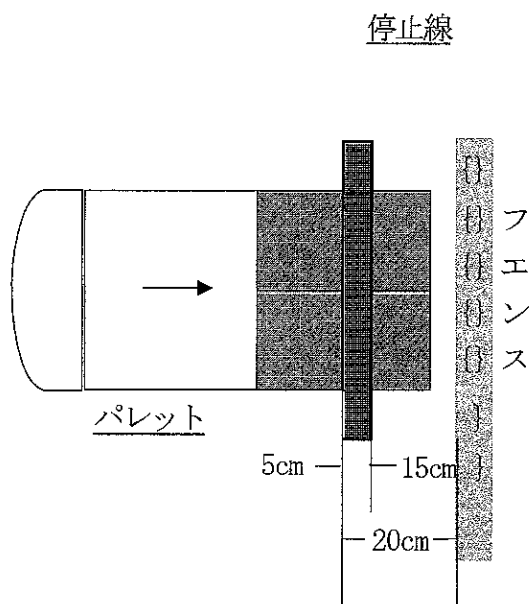


停止線B (後進)

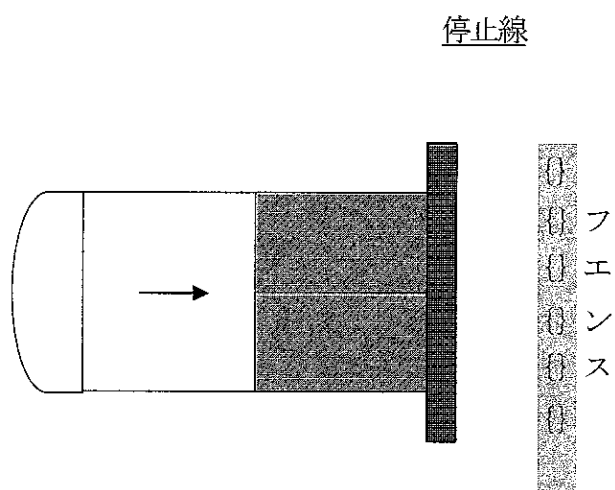


停止線C

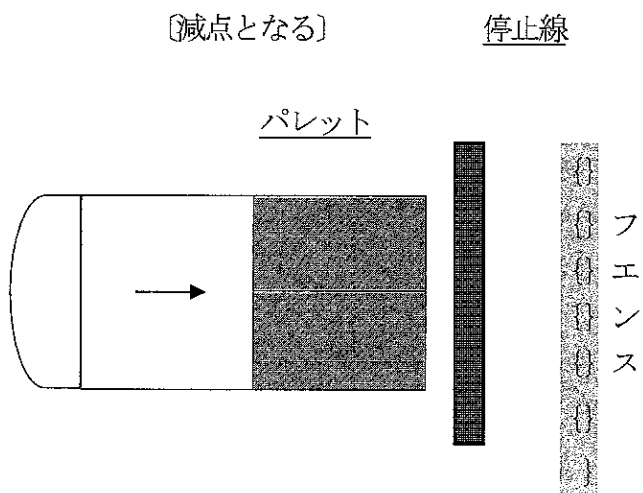
〔減点とならず〕



〔減点とならず〕



〔減点となる〕



〔減点となる〕

